

取扱説明書

DAYTONA corp.

R71123①/④

*取り付けする前に必ずお読み頂き、内容をよく理解して正しくお使いください。

*この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるよう大切に保管してください。

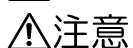
*この商品を第三者に譲渡する場合は、必ずこの取扱説明書も併せてお渡しください。

MITYVAC マイティバック (ブレーキエア抜きツール)	適応車種	商品NO.
	汎用	71123

■ご使用前に必ず、ご確認ください■

※ 取扱説明書内の注意事項を守らずに使用した事による事故や損害について、当社では一切の責任は負いません。

本書では正しい取り付け、取扱方法および点検整備に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。

- | | |
|---|--|
|  | 警告 要件を満たさずに使用しますと、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。 |
|  | 注意 要件を満たさずに使用しますと、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。 |

 実施	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。	 禁止	禁止の行為であることを告げるものです。
 その他	その他の警告及び注意を告げるものです。		

警告

- | | |
|---|--|
| 
禁止 | <ul style="list-style-type: none">走行中に異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停車させ、異常箇所を点検してください。エンジンやマフラーは走行直後、熱くなります。やけどの恐れがあるため、冷えた状態で作業してください。 |
|---|--|

注意

- | | |
|---|---|
| 
実施 | <ul style="list-style-type: none">作業に入る前に必ず安全を確保した上で作業を行ってください。作業は車両のサービスマニュアルに従い確実に行ってください。重要保安部品のため、必ず国が認める検査機関に検査依頼してください。漏れ等の異常がないか必ず確認してください。塗装を傷めますので、塗装面にブレーキフルードがかからない様に作業してください。万一かかった場合は、直ちに清水にて十分洗い流してください。キャリパー、フロントフォーク等も同様です。ブレーキフルードがカップ④に溜まり過ぎると、MITYVAC 本体の中にブレーキフルードが入ってしまい、周りに吹き出す恐れがあります。作業する際は、定期的に④カップに溜まったブレーキフルードを法令に従って適切に処理してください。ブレーキフルードは注ぎ足しせずに完全に交換してください。マスターシリンダー部にゴミが入らないように注意してください。 |
| 
禁止 | <ul style="list-style-type: none">DOT4、DOT5 を混合使用しないでください。シリコン系とグリコール系フルードの混合使用も絶対にしないでください。 |

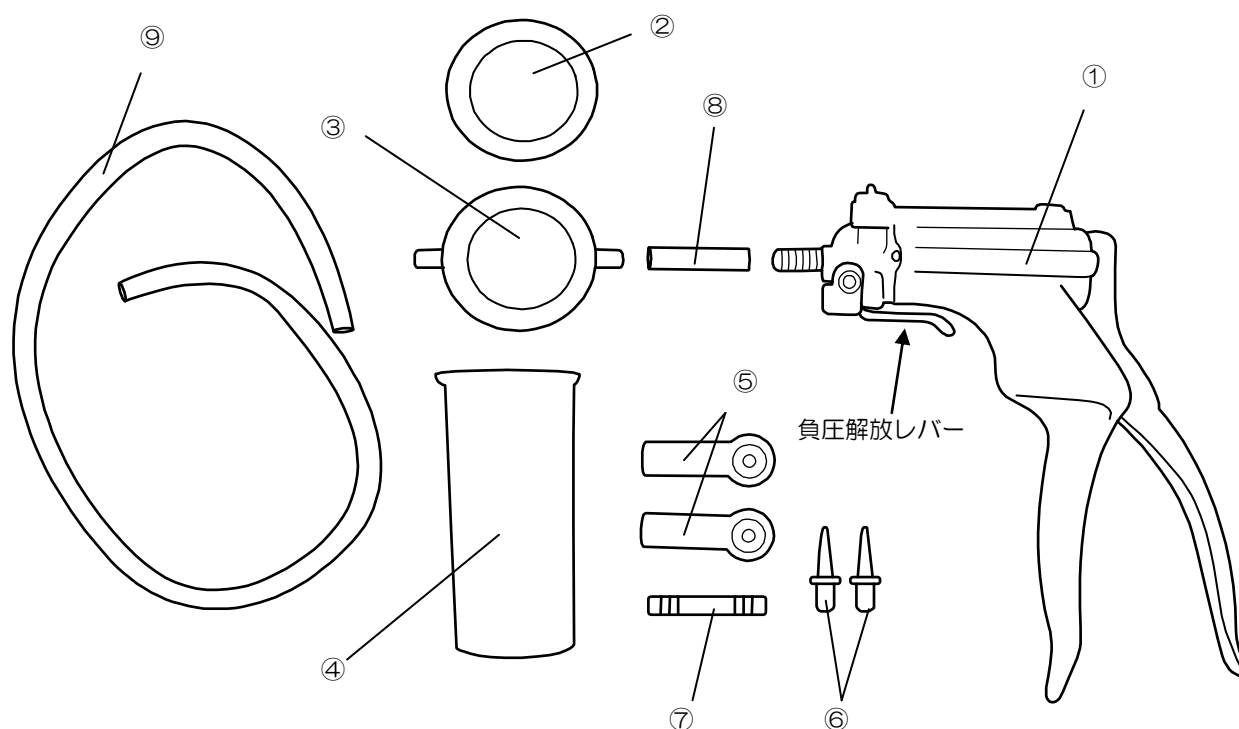
- | | |
|--|--|
| 
その他 | <ul style="list-style-type: none">この商品は、予告無しに価格や仕様の変更をすることがあります。予め御了承ください。 |
|--|--|

本商品の特徴

- 油圧ブレーキのエア抜きをバキューム式にすることで作業性が向上します。

商品内容

NO	パーツ名	サイズ(mm)	数量	NO	パーツ名	サイズ(mm)	数量
①	MITYVAC 本体		1	⑥	アタッチメント 2		2
②	キャップ 1		1	⑦	ジョイントニップル		1
③	キャップ 2		1	⑧	チューブ 1	Φ8.5×Φ6×40mm	1
④	カップ		1	⑨	チューブ 2	Φ8.5×Φ6×620mm	1
⑤	アタッチメント 1	Φ6	2				

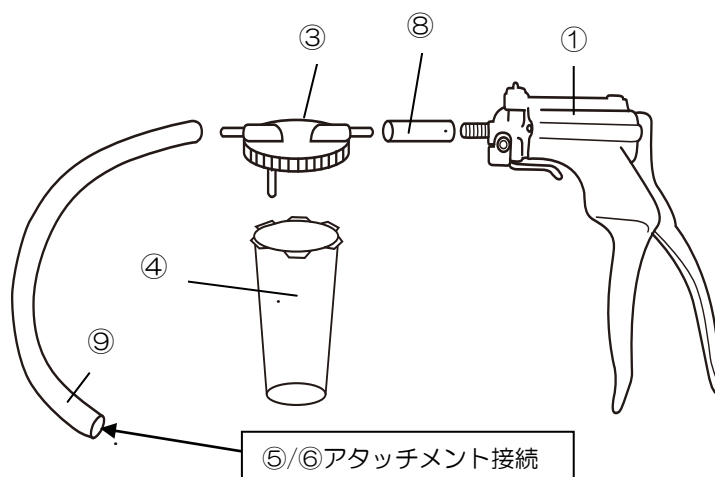
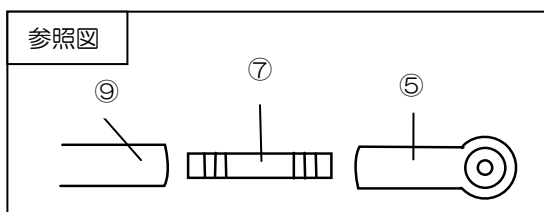


作業準備

1. MITYVAC を図のように組み立て、キャリパーに合った⑤/⑥アタッチメントを⑨チューブへ接続します。

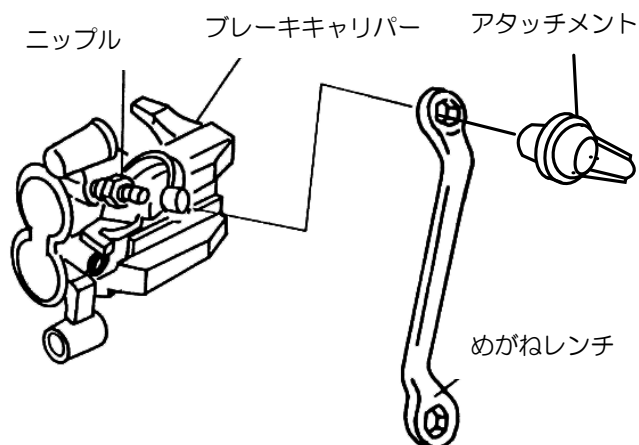
- ※ キャリパーに合ったアタッチメントを使用し、確実に接続してください。
- ※ ⑤のアタッチメントを使用する際は、⑦ジョイントニップルを使用して接続してください。(図を参照してください。)

参照図



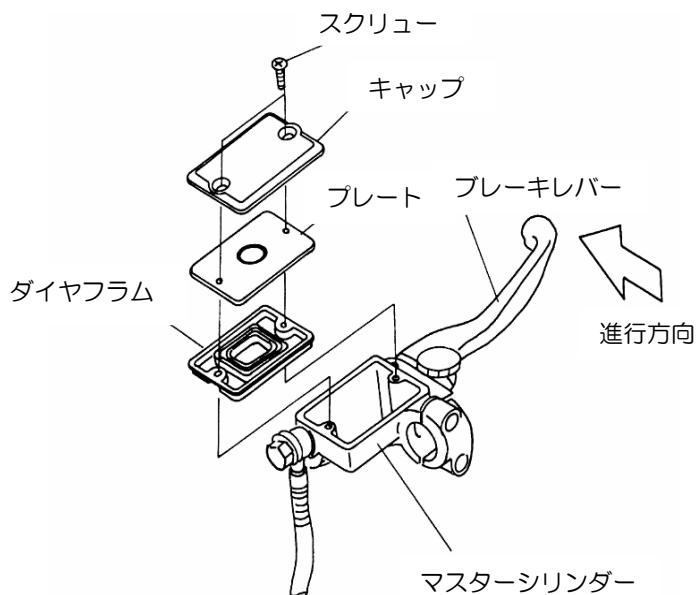
2. 車体側キャリパーのニップルへ、めがねレンチ、アタッチメントの順に組み付けます。

※ あらかじめキャリパーにウエス等を巻き、フルードがかからないようにすることをお勧めします。



3. マスターシリンダーからキャップ、プレート、ダイヤフラムを取り外します。

※ 作業の際は、ブレーキフルードが周りの物にかからないよう注意してください。また、部品は車両やマスターシリンダーにより異なります。



4. 準備完了後、作業方法Ⅰ、もしくはⅡに従ってエア抜きを行ってください。

作業方法Ⅰ

◆ マスターシリンダーやホース、ブレーキキャリパーを交換し、ブレーキフルードが入っていない状態からの作業方法です。

1. ブレーキフルードをマスターシリンダーのアップパーレベルまで注ぎます。
2. ブレーキキャリパーのニップルを軽く緩め、MITYVAC 本体のレバーをゆっくりとポンピングするとブレーキフルードが④カップへ溜まります。

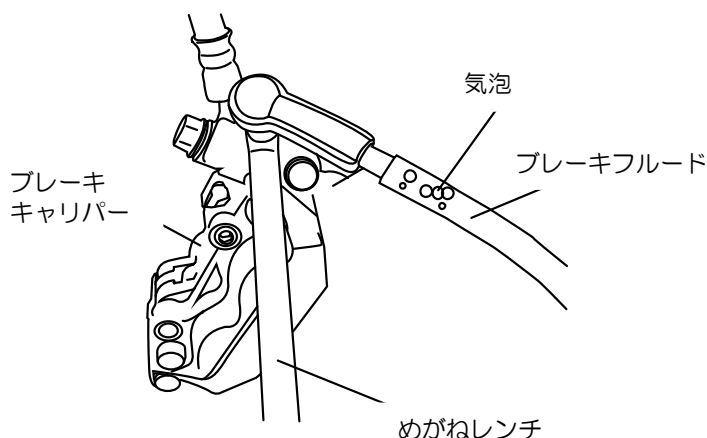
※ ブレーキフルードがローレベル以下まで減らないよう、必ず新品のブレーキフルードを注いでください。ブレーキラインへエアが入る原因となります。

※ ブレーキフルードがカップ④に溜まり過ぎると、MITYVAC 本体の中にブレーキフルードが入ってしまい、周りに吹き出す恐れがあります。作業する際は、定期的に④カップに溜まったブレーキフルードを法令に従って適切に処理してください。

3. ニップルを締め、タッチを確認します。タッチが出るまで手順 1～3 を繰り返し行ってください。

△注意

ホースから見える気泡はアタッチメント等の隙間から発生している気泡も含んでいます。必ずタッチを確認しながら作業してください。



作業方法Ⅱ

- ◆ 劣化したブレーキフルードを交換する際の作業方法です。

1. ブレーキキャリパーのニップルを軽く緩め、MITYVAC 本体のレバーをゆっくりとポンピングすると古いブレーキフルードが④カップへ溜まります。s

ブレーキ
キャリパー

気泡

ブレーキフルード

めがねレンチ

- ※ ブレーキフルードがロアーレベル以下まで減らないよう、必ず新品のブレーキフルードを注いでください。ブレーキラインへエアが入る原因となります。

- ※ ブレーキフルードがカップ④に溜まり過ぎると、MITYVAC 本体の中にブレーキフルードが入ってしまい、周りに吹き出す恐れがあります。作業する際は、定期的に④カップに溜まったブレーキフルードを法令に従って適切に処理してください。

2. ホースを流れるブレーキフルードが新しいブレーキフルードになるまで作業 1～2 を繰り返し行ってください。新しいブレーキフルードが流れてきたら、ニップルを締め、タッチを確認します。

△注意

ホースから見える気泡はアタッチメント等の隙間から発生している気泡も含んでいます。必ずタッチを確認しながら作業してください。

確認作業

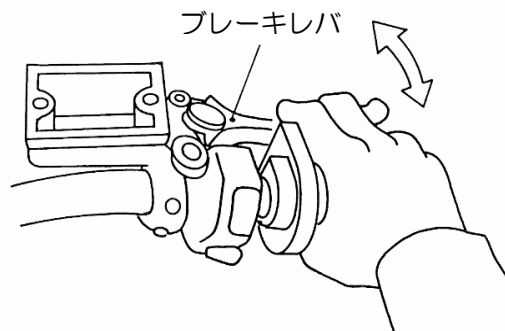
1. タッチが出たら、MITYVAC 本体の負圧解放レバーを押し、負圧を逃がしてから本体を取り外します。

- ※ この際、アタッチメントやカップはニップルに取り付けたままにしてください。

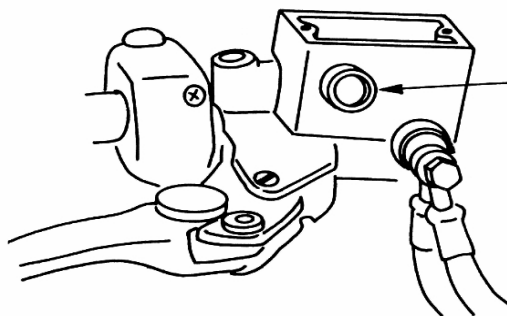
- ※ 必ず負圧を解放してからMITYVAC本体を取り外してください。また、負圧解放レバーの位置は商品内容の図を参照してください。

2. 取り外し完了後、エア抜き作業を行いながら再度タッチの確認をします。

ブレーキレバーをポンピング（3～4回）

↓
ブレーキレバーを握り、ニップルを緩めエア抜き↓
ブレーキレバーを握ったままニップルを締める

3. タッチ確認後、アタッチメント、めがねレンチを外し、マスターシリンダー内のブレーキフルードを規定量に合わせ、取り外した部品をサービスマニュアル通りに戻して作業は終了です。

ブレーキフルードの量を
規定にあわせます。

使用後、ブレーキフルードでツール箱等の塗装を傷める恐れがあります。MITYVAC の各部品を清水にて十分洗い流してください。抜いたブレーキフルードは、法令に従い、適切に処理してください。